

編集発行：山口県立大学同窓会桜園会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

Ouhokai - Kaihou

桜園会 会報

Vol. 63

平成27年3月1日発行



長坂学長とジャンケンゲーム



女専時代の思い出—古川綾子さん—



福田会長はグー?



齊藤輝さん



和やかに談笑



手作りの御馳走いっぱい

変わる大学教育

山口県立大学学長 桜園会名誉会長 長坂 祐二



十八歳人口の二人に一人が大学に進学する時代になりました。昭和40年代では約20万人の入学定員に対して50万人以上の志願者がいました。現在では約58万人の入学定員に対して約68万人が受験します。大学を選ばなければ、どこの大学に入学可能になり、大学生の学力低下が問題になっていきます。

文部科学省は、生涯学び続け、主体的に考える力を育成するために、大学教育の質的転換を求めています。企業の活力が落ちていく中、自前で人材育成する余力がなくなり、大卒者に即戦力としての能力が求められるようになりました。これに対応するために、大学教育の視点を「教員が何を教えるか」から「学生はどのように学ぶか」へ移して、学習者中心の教育プログラムを実践することが、大学教員に求められるようになりました。しかし、多くの大学

十八歳人口の二人に一人が大学に進学する時代になりました。昭和40年代では約20万人の入学定員に対して50万人以上の志願者がいました。現在では約58万人の入学定員に対して約68万人が受験します。大学を選ばなければ、どこの大学に入学可能になり、大学生の学力低下が問題になっていきます。

文部科学省は、生涯学び続け、主体的に考える力を育成するために、大学教育の質的転換を求めています。企業の活力が落ちていく中、自前で人材育成する余力がなくなり、大卒者に即戦力としての能力が求められるようになりました。これに対応するために、大学教育の視点を「教員が何を教えるか」から「学生はどのように学ぶか」へ移して、学習者中心の教育プログラムを実践することが、大学教員に求められるようになりました。しかし、多くの大学

十八歳人口の二人に一人が大学に進学する時代になりました。昭和40年代では約20万人の入学定員に対して50万人以上の志願者がいました。現在では約58万人の入学定員に対して約68万人が受験します。大学を選ばなければ、どこの大学に入学可能になり、大学生の学力低下が問題になっていきます。

文部科学省は、生涯学び続け、主体的に考える力を育成するために、大学教育の質的転換を求めています。企業の活力が落ちていく中、自前で人材育成する余力がなくなり、大卒者に即戦力としての能力が求められるようになりました。これに対応するために、大学教育の視点を「教員が何を教えるか」から「学生はどのように学ぶか」へ移して、学習者中心の教育プログラムを実践することが、大学教員に求められるようになりました。しかし、多くの大学

未来への懸け橋

―五年後の輝きを見つめて―

山口県立大学副学長 岩野 雅子



平成六年本学に着任し、桜園会学内理事を務めてまいりました。卒業生として母校に貢献する喜びや感謝の意を胸に、本学の新たな体制について二言ご紹介申し上げます。

本学は、平成二十六年四月から理事長・学長分離型という新たな体制に移行しました。理事長は経営、

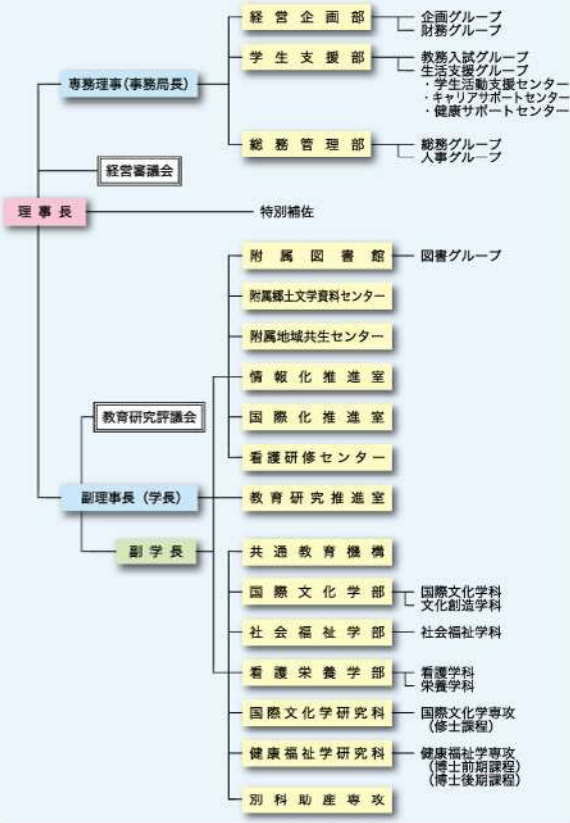
学長は教学に専念すること、平成十八年度に法人化した大学をより発展させていこうという大学設置者(県)の意向によるものです。江里理事長は県知事が任命され、長坂学長は教職員意向を参考に学長選考会議で選出されました。日本社会をみわた

すと、「二〇二八年問題」というように、若者人口はこの時期から急激に減少します。全国の大が直面する大きな課題であり、わずか三年後に迫っています。また、急速なグローバル化や情報化の進展により、国内外のトップクラスの大学の授業が誰でも、どこからでも視聴できる時代になりつつあります。質の高い教育や研究に世界中からアクセスできる明るい時代ですが、一方で、大学間競争がますます激化し、各大学は自らが存在す

る意味を問われています。このような厳しい風が吹くなかで、本学は新キャンパス建築の植音が聞こえるという嬉しいニュースに包まれています。地方創生、若者定着、女性の活躍、国内外に誇れる豊かな暮らしの創造、地域文化の発信といった諸課題の解決に向け、本学の強みと伝統を活かした数々のチャレンジが進行中です。平成三十年年度から始まる第三期中期計画に向けて、「懸け橋」を増した大学となるべく「懸け橋」をかけるのが今の私たちの仕事です。未熟ではございますが、今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(昭和56年児童文化卒)

大学組織図



新キャンパス着工と桜の森について

山口県立大学事務局長 藤井 哲男



本年一月から、待望の新キャンパスの建設工事が始まりました。新キャンパスは、現在の看護棟の背後に広がる造成地を最大限に活用し、各学部・学科棟が中庭を囲んで一体感を醸し出す素晴らしい学舎となります。

また、新キャンパス予定地は、開学六十周年事業として桜園会の皆様方の多大なお力添えをいただいで植樹した桜の花が春を彩り、本学のシンボルとして見事な景観を呈しています。

こうした中、第一段階の栄養学科棟と学部共通棟の整備に当たって、植樹した桜の木が工事の支障となるのが県から示されました。大学としては、何とか移植できないか検討しましたが、今後、第二段階以降の工事が続くために移植場所が極端に限定されることや、桜の木は移植が難しく根付きが悪いため枯れてしまう確率が高いとの専門

家の意見を考慮し、苦渋の決断ではありましたが、必要最小限の範囲で伐採させていただき、敷地を最大限に活用した素晴らしい新キャンパスの建設を優先することといたしました。

桜の木には、皆様方一人ひとりの本学に対する愛着が込められていることは十分に承知しており、このような事態になったことは当初の見通しの甘さによるもので先ずおわび申し上げます。まことに残念ですが、新キャンパス完成の暁には、六十周年記念樹に替わるものとして、また、本学の新たな未来への第一歩を象徴するものとして、若い桜の苗を新たに植樹し、新キャンパス一面を桜の花で満たしたいと考えています。

大学としては、本学の将来に目を向け、皆様方と一緒に、学生の笑顔があふれるキャンパスの早期実現を目指してまいりますので、何卒ご理解いただきまますようお願い申し上げます。

総会の前日、五月十七日の午後、ケラススの会主催でホームカミングデーを企画しました。学内キャンパスツアーでは、現役県大生が「本館めぐりコース」「看護棟めぐりコース」にご案内しました。在校生は「今」を語り、大先輩は、過ぎし日の青春を語り、談笑しながらの和やかな散策が見受けられました。交流会では、福田百合子桜園会会長、原田洋子、相本艶子副会長をはじめ、同窓生一四四名の皆様を長坂祐二学長、岩野雅子副学長、在校生、ケラススの会がお迎えし、卒業生でもある国際文学部の安光裕子先生の司会進行で、終始和やかに交流が盛り上がりました。

会場は、同窓生の美術作品などが展示され、各テーブルには、起業された栄養学科の卒業生の焼き菓子も並び、温かい手作り感にあふれていました。フィナンランドでご活躍中の大田舞さんがデザインされた桜園会オリジナルバッグが各席におかれ、緑、黄、オレンジの色合いは会場を華やかにしました。パツグの桜の花をあしらったロゴ付きのタグは、ケラススの会員小橋先生のデザインによるもので、「小さくても存在感がある」という思いが込められたものです。

山口県立大学 ホームカミングデー 「ようこそ先輩！母校桜島へ」

別科助産専攻講師 三谷 明美

また、山口県立女子専門学校卒福田百合子さん、山口女子短期大学卒阿波昌子さん、山口女子大学卒石川博子さんよりスピーチをいただき母校の変遷を辿ることができました。山口県立大学卒及び修了のケラスス会員には大学の現在の様子を語っていただきました。NHKのご自慢全国大会に出場された齊藤輝さんの歌唱力には、皆が聞き惚れ、アンコールまでありました。その他、茶道部による和

の演出とお抹茶の接待、チャリティーパーザーなど、さわやかな新緑の中、ここかしこで談笑の輪が広がっていました。同窓生としての一体感を感じ、時間を過ごし、今後ますます山口県立大学を拠点とし



大学の現在の様子を語るケラスス会員

て時間を越えた絆、分野を超えた絆ができていくことを予感しました。(平成21年大学院健康福祉学博士前期修了) ※ケラススとは、ラテン語で核、ケラススの会とは母校である山口県立大学に勤務する教職員の集まりです。

平成26年度 大学との情報交換会

今年度も大学と桜園会理事との情報交換会が、五月十七日(支部代表も出席)と十二月七日の二回開催された。

五月の会では、江里理事長より今年度から学長職と理事長職を分離し、学長は教学・人材育成、理事長は大学経営に専念する新体制となったこと、卒業生の岩野雅子さんが副学長に登用されたことなどの説明があった。そのほかグローバル人材育成推進事業や地(知)の拠点整備事業についての詳しい説明や、「さくらの森夢基金」の学生支援を目的とした執行予定などについて報告が行われた。

十二月の会では、まず大学の教育研究に資する外部資金獲得の取り組みについて、続いて平成二十七年一月から新キャンパスの栄養学科棟と学部共通棟が順次着工となり、

平成二十九年四月から施設使用を開始する見込みとなったことが報告された。

次に新キャンパス予定地の桜の森について、大学と桜園会により例年行われて来た施肥作業は成育十分のため終了し、今後は病虫害防除の取組みを考えると報告があった。

また、新施設の実施設計中に工事の支障となる桜が二十七本あることが判明し、対象木の移植を前提に調査検討したが、専門家の意見(約百万円の移植費用と活着率の低さ)や今後も施設整備を進める過程で対象木が出る可能性があることなどから、苦渋の選択ながら伐採したい旨の提案があった。これに対し、桜園会から桜のオーナーの思いを汲み取って頂き、理解協力が得られるよう誠実な対応をお願いしたいと申し入れた。

(昭和60年児童文化卒 大前記)

人事異動

■退職

ヒギンズ マリン 国際文化学部教授
田村 洋 国際文化学部教授
浅羽 祐樹 国際文化学部准教授
伊藤 幸司 国際文化学部准教授
重岡 修 社会福祉学部准教授
松尾 義和 社会福祉学部助手
日野 精二 看護栄養学部教授
山下 満枝 別科助産専攻教授
松尾 洋 共通教育機構教授
小川 雅広 共通教育機構教授

■新任

内田 耕一 看護栄養学部教授
増成 直美 看護栄養学部教授
曾根 文夫 看護栄養学部准教授
矢田フミエ 看護栄養学部講師
佐々木満智子 看護栄養学部助教
久保田裕美 看護栄養学部助手
森山 結香 看護栄養学部助手
森塚 潤子 看護栄養学部助手
守永 郁子 看護栄養学部助手
清水亜依美 看護栄養学部助手
小野本ヒロコ 別科助産専攻特任教員
小坂まり子 看護研修センター主任教員
尾川 満宏 学生支援部助教

■事務局職員転出

小田由紀雄 退職
松岡 光信 農林水産政策課

■事務局職員転入(法人採用)

藤井 哲男 事務局長
松永 正 総務管理部長
・岡 香菜子 教務入試グループ主事
・梅地三保子 総務グループ主事

平成26年度桜園会総会 桜園会創立70周年記念 祝賀会開催

平成二十六年五月十八日(日)にホテルニュータナカにおいて、第七十回桜園会総会が開催され、総会に引き続き桜園会創立七十周年記念祝賀会も開催されました。当日は、二四〇名が参加され、大盛況となりました。

福田会長の「大学と同窓会の発展を祈り願ひ喜んで今日一日を過ごしましょう」とのさわやかで明るい挨拶から、会が始まりました。

続いて「今日まで、そして明日から」と題して、長坂祐二学長の講演。長坂先生のルーツが甲州武田家の家臣、僧侶や医者であったこととの紹介からお話が始まりました。県大赴任までは内科医として糖尿病の臨床と研究をされ、その後バージニア大学に留学されたこと。県大に赴任されてからは、栄養士キャリアアップ研修な



どにも取り組まれ、その内容から、望ましい健康行動への促し、生活習慣改善のジレンマからどう抜け出すかなどについてご紹介がありました。生活習慣の改善に伴うストレスを解消するには、暗闇レストランから学べど、いつもと違う行動(スポーツや映画、読書、泣くなど)は、違う脳の使い方ができると話されました。

また、学長として、学生の多様化に伴い、「教員中心の教育(知識伝達型学習)」から「学生中心の教育(体験型学習)」へ転換し、汎用的能力を身につけるような人材育成を進めること、そしてその成長体験のサポートをすることが教職員の役割であると力強く話されました。

講演後の創立七十周年を記念しての祝賀会では、福田会長、長坂名誉会長からの挨拶に続き、江里理事長からお言葉をいただきました。

今年、七十周年記念ということで「あの頃の学生生活、大学の今」と題して、山口女子専門学校、山口女子短期大学、山口女子大学、山口県立大学、それぞれの卒業生に思い出を語っていただきました。プロジェクトには懐かしい映像も映しだされ、七十年という歳月に積み重

ねられた歴史の重さに思いを馳せることができた時間でした。

続くレクリエーションでは、県大吹奏楽団BLAZERによる「あまちゃん」や「恋するフォーチュンクッキー」などが披露され、県大学生歌の演奏には、会場が一つになって歌い、心温まる穏やかな時間となりました。
(平成21年大学院健康福祉学博士前期修了 林記)

平成27年度 桜園会第71回総会のご案内

■日時
平成27年5月17日(日)
午前10時〜午後2時

■場所
ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL083(923)1313

■講演
(演題)
「長州を新たな角度から見てみよう!」
(講師)
国際文化学部教授
シヤルコフ・ロバート先生

■会費
5,000円
当番幹事はS144・49・154・2659・H1・6・11・16・21・2154・年卒業のクラス幹事さんです
*出席ご希望の方は、5月6日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

平成25年度桜園会会計収支決算書 H25.4.11(単位:円)

科目	目	25年度決算額
収入	入金	2,778,568
繰越	常会費	2,382,000
本部	入会金	5,366,581
事業	負担金	660,000
雑	収入	710,819
合	計	11,897,968
支出	総会費	814,874
会	議費	375,940
支	部援助費	967,500
部	報作成費	1,207,535
公	会開講座費	119,168
桜	園会賞費	450,610
桜	の森育成事業費	51,310
入	会記念品費	330,750
広	報活動費	190,633
旅	費	1,113,980
通	信費	104,282
印	刷費	0
事	務局運営費	2,516,533
退	職給与引当金	200,000
情	報管理費	114,500
備	品費	180,400
消	耗品費	144,851
雑	費	131,581
予	備	0
合	計	9,014,447
次	年度繰越	2,883,521

事務局からのお願い

経常会費の改定ならびに納入についてのお願い

平素より桜園会会員の皆さまには、桜園会へのご理解ご協力ありがとうございます。桜園会は会員の皆さまの経常会費および寄附金等により運営しております。現在の桜園会の会計は、皆様からの経常会費の納入率の低下等による収入減、あわせて、新規会員の増加等による支出増により、大変苦しい状況となっております。そこで、平成26年度総会にはかり、昭和51年より1,000円であった経常会費を平成27年度より2,000円に改定することとなりました。会員の皆さまには、経常会費の改定についてご理解いただき、経常会費納入にご協力をお願いいたします。

◆桜園会本部経常会費納入(年間2千円)をお願いいたします。(H27.3.1施行)

納入年度	26年度経常会費(1,000円)	27年度経常会費(2,000円)	経常会費合計
26年度・27年度	○	○	3,000円
27年度		○	2,000円

*65歳以上の会員で希望される方は、終身会員になることができます。終身会費は一括払いで1万5千円です。(H23.5.23改定)

◆振込用紙に郵便番号、住所(番地、建物名、部屋番号)、氏名(ふりがな)、電話番号を正確にご記入下さい。通信欄には会員番号(封筒の宛名シール右下)、卒業年・科・勤務先、送金明細をお書き下さい。*住所・勤務先の変更、改姓も必ずお知らせ下さい。

◆ご連絡・ご質問の窓口

山口県立大学同窓会桜園会事務局
住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日 10時~17時)
E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
山口県立大学のホームページからもアクセスできます。
(http://www.yamaguchi-pu.ac.jp)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。



桜園会第35回公開講座
山口県立大学全学特別講義
「地球環境を救う」

新しいライフスタイルへ

講師 淑徳大学教授 北野 大まさる

平成二十六年十一月十四日（金）、淑徳大学教授 北野大氏をお迎えして「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」と題し、桜園会第三十五回公開講座が開催された。講座に先立って長坂学長から講演会の位置づけの説明がされ、この講座は県立大学全学特別講義でもあること、また今回は時事通信社の寄付講座でもあるということであった。

北野教授は一九四二年東京生まれ。

れ。ピートたけし氏の実兄で、テレビなどでもおなじみであるが、本職は淑徳大学教授、環境化学が専門で、分析化学で博士号を取得されている。いつもの洒落な語り口で、「山口県の影響はオレンジ色のガードレール」と話し始められ、ついで弟のたけし氏とのエピソードも紹介。来場者の心をほぐされたところから急転直下、二十世紀の人類が抱えている課題について言及、本題へ。資源枯渇問題をどう考えるか、エネルギー資源の視点、鉱物資源が使えない状態への変化にどう対応するか、また気候温暖化問題などなど、専門的な話題が続く。

地球温暖化のメカニズム、温暖化の具体例としてのヒマラヤ氷河の融解の様子の写真、世界の二酸化炭素の排出量の比較も示された。国としては中国が世界の四分の一を占めるが二人当たり排出量で見ると、アメリカ、韓国、ロシア、日本と続くという。二酸化炭素濃度は産業革命後急速に増加したものであること、人類のエネルギーの利用の歴史を振り返って考えてみる必要がある。電気と同じ二次エネルギー源としての水素が最近の話題となっている。現代社会とエネルギーの関係を考えること、エネルギーを投入し時間を短縮していることに気付く。低酸素社会を目指す有効な手段として、生き方を見つめなおすことを提案されて締めくくられた。

（平成24年大学院国際文化学修了 原田記）

追悼

古田足日先生へ

昭和55年児童文化卒
井上 順子

六月八日、新聞紙上で先生ご逝去の報に接し、十五日のご葬儀には、同期の小畑泰子さんと参列致しました。

三年前、東京の大学生だった息子と、住所だけを頼りに迷いに迷って、先生のご自宅に伺ったことがありました。ちょうど奥様とお嬢さんの茜さんも在宅で、先生も、通院はしていらっしやるとのことでしたが、お元気なお顔を拝見してうれしく思いました。中川洋子先生急逝のこと、山口一の坂川の螢の様等々、近況もお話でき、しみじみと懐かしい思い出おとま致しました。

その年の年賀状には、「八十四歳、もうひとふんばりしよう

と思つていきます。」と、お返事をいただきました。

学生時代、先生の講義は知識不足の私には難しく、卒論でも停まってしまう度に、「で、順ちゃんはどうなの。」と、自分から答えを見つけるまで問いかけてくださいました。

小学校教員になり、子ども達と関わり始めて、やっと先生の児童文化に対するお考えや、書かれた絵本の魅力に気が付きました。ご縁があつて古田足日先生と繋がっていると感謝しています。「子どもたちに平和なあしたを」の願いを胸に、精進したいと思ひます。ご冥福をお祈り致します。



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職	森下	高雄	H23
旧職	吉松	和	H25.6.22
旧職	時浦	和	H25.8.22
旧職	村田	恭	H25.8.22
旧教	古田	智	H26.6.8
旧職	小坂	足	H26.8.8
旧教	小千	一	H26.11.20
旧教	千三	忠	H26
旧教	宅三	至	H26
旧教	宅三	義	H26

◆会員

S30食物	藤子	H24.12.26
S27国文	国淑	H25.3
S24国語	渡辺	H25.4.22
S37被服	田中	H25.5.24
S24育児	長谷	H25.6.12
S34国文	近須	H25.8.28
S39被服	渡辺	H25.9
H18看護	日置	H25.10.20
S28国文	池田	H25.10.28
S36被服	加藤	H25.11.4
S45保育	原田	H25.12.22
S20家事	渡邊	H25.12.23
S32児童	河野	H25.12.28
S30食物	渡利	H25
S40国文	谷早	H26.1.4
S33国文	清木	H26.1.7
S62食管	山中	H26.1.15
S22国語	杉井	H26.3.6
S30被服	末田	H26.5.1
S30食物	柏木	H26.5.3
S43国文	藤井	H26.5.14
S59被服	由川	H26.5.16
S19家事	廣山	H26.5
S24被服	山根	H26.7.19
S24被服	山田	H26.8.5
S18家事	森重	H26.8
S19裁縫	伊藤	H26.8
S43食物	合田	H26.9.14
S28国文	橋本	H26.9
S25国語	富永	H26.10.27
H25国際	横谷	H26.11.21
S35保育	河村	
S30食物	斎藤	H27.1.9

第十四回桜園会賞 受賞報告

第14回
功勞賞

同窓生としての
誇りと使命

藤井 絹代



この度は、図らずも、身に余る輝かしい賞をいただき、感激入で深く感謝致しております。

同窓生の多くの方々がいるいろいろな分野ですばらしい活躍をされておられますのに私が、との戸惑いがありました。ともあれ先輩としての立場で皆様を代表してお受けしたと思っております。私は、卒業後すぐに附属幼稚園に就職し、定年までの長い年月勤めさせていただきました。有能なスタッフに恵まれ支えられて、職責を全うすることが出来ました。附属幼稚園の役割の中に幼稚園教育実習指導が課せられており、目的意識を強くもった学生さん達と一緒に保育実践を行いながら、幼児教育の在り方を究明して参りました。そこで子どもの心を育む「幼児教育宮野イズム」が樹立された

第14回
奨励賞

桜園会奨励賞を
受賞して

吹奏楽団BLAZE

馬場 一栄

と確信しています。この精神をモットーとして卒業生の皆様は、幼稚園保育所、養護施設や小学校へ就職され、直向きな努力を重ねて素敵なリーダーとして活躍されました。近頃ではコミュニティ活動や子育て支援活動に携わっておられる方も多く、使命感をもってのお働きに敬服し、同窓生としての誇りを感じます。

終わりに母校山口県立大学と同窓会の益々のご発展を祈念し、お礼のご挨拶といたします。
(昭和28年児童卒)

この度、桜園会奨励賞を受賞しました。吹奏楽団BLAZEです。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

私たち吹奏楽団BLAZEは、キャンパス内の音の文化を創造するとともに、大学と地域のつながりを持つという目的で、本学の楽団として二〇〇三年五月に発足し、今年で創立12年目を迎えました。主に学校行事や桜園会総会、地域行事などで演奏活動を行っております。

桜園会賞応募要綱

平成27年度からは3つの領域となりました。

功勞賞は、

卒業後の会員の活動をたたえ

- ①地域社会の文化の振興
- ②生活文化の創造や普及
- ③文化的環境づくり
- ④地域社会や文化を担う人材育成

に寄与する活動をしている会員若しくは会員が主催するグループや団体に授与されます。

桜園会本部あるいは支部の推薦、または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

奨励賞は、

卒業後の会員(原則として50歳未満)の活動を支援し、上記①～④の活動が期待される会員若しくは会員が主催するグループや団体に授与されます。

桜園会本部あるいは支部の推薦、または他の会員の推薦を受けて応募して下さい。

学生賞は、

準会員(在学生)の活動を支援し、上記①～④の活動が期待される準会員若しくは準会員が主催するグループや団体に授与されます。大学教職員の推薦を受けて応募して下さい。

なお、受賞者は選考委員会の審査を経て、桜園会理事会で決定されます。

応募手続き・問い合わせ先

所定の様式に必要な事項を記入のうえ、山口県立大学同窓会桜園会事務局に提出してください。

応募日程

- (1) 応募期間:平成27年6月1日から8月31日まで(当日消印有効)
- (2) 結果発表:平成27年10月(予定)

今年度は新たに23名の団員を迎え、活動してまいりました。八月に行われました第53回全日本吹奏楽コンクール山口県大会では大学B部門において二年連続金賞を受賞いたしました。また、十二月には山口県立大学桜園会館にて二年間の集大成となる第12回定期演奏会を行いました。今年「アミューズメントパーク」をテーマにし、お客様に楽しんでいただけるステージを企画しました。桜園会をはじめ多くの方々にご支援いただき、今年も盛大に開催することができました。

今後とも応援して下さる皆様に感謝し、演奏活動を行って



いきたいと思います。これからも温かく見守っていただければ幸いです。ありがとうございます。
(社会福祉3年)



「旭日」上田錦穂(S29被服卒)



松井富美子(S30被服卒)



「殿入櫻」土光洋子(S32児童卒)

学内ギャラリー

会員近況報告

職業人として

内田 伸

山口女子大学二期生として卒業後、高校家庭科教員として働いてきました。県内の県立高校に勤務し高校生や教職員との出会いがあり日々やりがいを感じておりました。現在は教職員の研修を行う施設「やまぐち総合教育支援センター」に勤務しています。

山口県では、近年教職員の大量退職、初任者の大量採用を迎え、研修の重要さも問われているため、センターではこの喫緊の課題を解決すべく、微力ながら日々奮闘しています。そのような中、様々なステージを与えられた現在の自分がいるとき、これまでの経験が役に立っていること、様々な出会いに支えられていることなどを強く感じます。さらには、仕事を持つて社会とコンタクトを持ち、無意識に自分の才能を開花させていたいただいたことに感謝しています。

管理職として、時には厳しい判断を迫られる時もありますが、女性目線での気配りや寄り添い方、OJTの仕方などがあるのではないかと常に考えています。生徒を育てる視点から教職員を育

成するという時に、その方々の無限の能力を発揮できるように、これからも精進していきたいと考えています。

(昭和54年被服卒)



(やまぐち総合教育支援センター)

会員近況報告

奈良の魅力
全国へ発信

倉橋みどり



結婚を機に住むようになった奈良で、フリーの編集者ライターとして働いています。専門分野は奈良の歴史や文化と社寺について。学生時代は苦手

だった日本史も古典も、歴史がくらしに溶け込んでいる奈良では、自然と頭に入ってくるようで、いつの間にか少し詳しくなりました。

雑誌や新聞に依頼された文章を書いたり、カルチャースタールの講師も引き受けています。最近では、古事記編纂三〇〇年を機に奈良県が取り組んでいる「記紀万葉プロジェクト」で、子ども向けの「古事記かるた」や、天皇皇后両陛下にもご覧いただいた大古事記展の図録の編集にも関わりました。

また、少しずつ書籍の仕事も増え、淡交社から出版された『奈良大和路の紅葉』では文章を書かせていただきました。子どもの頃から、文章を書くことが好きで、活字に関わる仕事をしたい、いつか本も出せたらと願っていました。なかなか休みもとれない忙しい日々ですが、夢がかなって本当に幸せだと思っています。

これからでもできる限り長く、深く奈良の歴史や文化と関わりたいながら、全国に奈良の魅力を発信するひとりであり続けたいと思います。

(平成2年国文学卒)

会員近況報告

手仕事に
想いを繋ぐ

高島 海



私は本学が山口県立大学、つまり共学になってから二期目の男子学生として、そして最後の家政学部生活デザイン学科の学生として学んだ。

縁あって在学中より多様なジャンルでプロとして活躍されている方々と接し、仕事として関わる機会を持つことができた。大学院修了後も友人であるエグアドルのミュージシャングループの舞台衣装や装置の制作・プロデュースに携わり、表現の場を得た。その後の二〇〇八年、東京自由が丘にて洋服のお直しとカフェの複合ショップ「nucate」のオープンに参画し、今ではそのお直しを二手に担っている。

お直しにはサイズやデザインを変える作業と、生地や素材の傷みを補修する場合があります。このような仕事は、かつて世界の至る家庭の中で行われてきた。今、私が預らせていただくものの中にはご両親や祖父父母、親

類などの大切な方から譲り受けたというお品ものが少なくない。そこには手が入られた跡をみることもある。

今、人生の伴侶を得て、三人の子の親となった。私はこの家庭の中で、この手で、何が残せるだろうか？

(平成15年大学院国際文化学修了)

■新刊紹介■

『あこがれのイスタンブール
77日の絵日記』

どこうひろこ 著

(土光洋子 昭和32年児童卒)
榊東洋書店 (一、〇〇〇円+税)



『奈良 大和路の紅葉
(奈良を愉しむ)』

桑原英文・倉橋みどり 著

(平成2年国文学卒)
淡交社 (二六〇〇円+税)





東海支部創立 三十周年を迎えて

東海支部長 菱川 苑子

東海支部は今年、創立三十周年を迎えました。十一月二十二日(土)、晩秋の紅葉美しい徳川御三家ゆかりの地、名古屋徳川美術館の宝善亭にて会長の福田百合子先生、江里健輔理事長と土田敏子理事をお迎えし総会を開催することができました。

久し振りに出席の方や、三重の志摩市と遠くからの先輩など例年より沢山の出席者でした。

美術館で源氏物語絵巻特別展を慌ただしくみて、福田先生の源氏物語の講演をお聴きし、通読したい気持ちにかられました。

江里先生には、医師としての立場から貴重なお話も聴かせていただき、先生方の若々しさ、あのパワーはどこから出ているのかと逆に元気をいただきました。五月に山口の本部総会で頂いた桜園会創立七十周年記念のDVDを見て、宮野の青春時代を懐かしく思い出しました。

東海支部創立時の資料、プロ級の写真の数々、花の描写など先輩の作品も皆で感嘆しながら見せていただきました。

今年の支部総会に初めて若い男性卒業生が出席され、大歓迎でした。

世代はさまざまでも、同窓という絆で結ばれ、一堂に会する

ことの幸せを思いながら、楽しい一日を過ごすことができました。(昭和40年食物卒)



山口支部は今年 五十周年を迎えました

山口支部長 原 ひろ子

山口支部は今年五十周年を迎え、ただ今「五十周年のあゆみ」を作成中です。

昭和三十九年三月一日の創立以降、先輩方が料理づくりや講演会、四年制大学昇格運動等に参加・協力しながら、活動を進めてこられました。

平成十年、規約・担当役名・六十五歳での役員就任(任期一年)等が決定し、盤石な支部組織ができました。今年六月一日(日)セントコア山

口で総会を開催し、新学長の長坂先生から「人材を育成し、将来的には県大ブランドを創っていきたい」という意

気込みのご挨拶をいただき、福田百合子会長からは温かい雰囲気の中、同窓会の中核である山口支部への期待を込めたお話を伺いました。記念事業として「童謡詩人金子みすゞの心を歌う歌手・作曲家」のちひろさんのコンサートを企画し、約六十名の参加者とともに感動のひとつを過ごしました。

また、十一月の親睦研修旅行では九州国立博物館の「特別展 台北故宮博物院展」の鑑賞と「大宰府天満宮」を参拝し、年代を超えた交流の輪が広がった楽しい時間を持つことができました。これからも県立大学のお膝元の山口支部として、大学や同窓会主催の公開講座等へも積極的に協力していきたいと思っております。(昭和44年食物卒)



〈平成26年度支部会開催報告〉

開催日	支部名	本部からの出席
26年 6月 1日	近畿支部	江里健輔理事長/小橋圭介先生
26年 6月 1日	山口支部	長坂祐二学長/福田百合子会長
26年 6月 8日	福岡支部	藤井哲男事務局長/福田百合子先生
26年 6月 8日	小野田支部	長坂祐二学長/原田洋子副会長
26年 6月15日	下関支部	藤井哲男事務局長/福田百合子先生
26年 6月21日	関東支部	江里健輔理事長/福田百合子会長
26年 6月22日	萩支部 長門支部	長坂祐二学長 国広勝代理事
26年 7月13日	宇部支部	藤井哲男事務局長/相本艶子副会長
26年 8月30日	防府支部	三島正英先生/相本艶子副会長
26年10月19日	広島支部	長坂祐二学長/安光裕子先生/熊本玲子理事
26年11月22日	東海支部	江里健輔理事長/福田百合子先生/土田敏子理事
26年11月30日	徳山支部	藤井哲男事務局長/水谷由美子先生/原田洋子副会長
27年 2月22日	柳井支部	長坂祐二学長/水津久美子理事

桜園会支部リスト (平成27年1月現在)

支部名	支部長名	支部会員数(名)
関東	井上多智美(食管57)	833
東海	菱川 苑子(食物40)	151
近畿	中島 久実(食物46)	696
広島	松原 正美(国文33)	664
四国	村松 幸子(食物35)	323
北九州	森岡 幸子(被服45)	465
福岡	荻 俊子(被服43)	452
佐賀	久保由美子(食物49)	141
大分	栗屋 文世(国文44)	286
岩国	友田 美美(食物33)	259
柳井	矢野 啓子(食物45)	228
下松	小田 玲子(児文56)	348
徳山	藤井由美子(国文45)	396
防府	石丸真由美(児文59)	497
山口	原 ひろ子(食物44)	1,521
萩	藤井 郁子(国文47)	175
長門	阿波 昌子(被服33)	139
宇部	池田 博子(国文49)	819
小野田	竹内 典子(児文60)	191
下関	福田 裕子(食物50)	523

編集後記

桜園会は創立七十周年を迎えました。女専以来、変遷を重ねながら培われてきた長い歴史を思わずにはいられません。各支部も、多くの困難を抱えながら活動が続けておられます。在学生も広い分野で活躍中です。

時を越えても、学び舎の窓を同じくする者同士のご縁を大切にしたいと思えます。その繋がりが、母校の発展を支える力ともなることでしょう。

会報が、母校への思いを繋ぐ助となれば幸いです。(熊本記)